

医療の現場から スポーツ傷害の 治療と予防を考える

専門分野 スポーツ医学(整形外科)

担当科目 臨床スポーツ医学特講、臨床スポーツ医学特論など

私は、全日本男女バレーボールのチームドクターを約20年間務めました。現在は、大阪体育大学診療所所長を務めながら、スポーツ傷害の治療や予防について研究しています。スポーツ傷害の多くは、オーバーユースによって引き起こされます。また、競技によって特殊性が見られる点も特徴です。たとえばバレーボールの競技者であれば、頻繁にジャンプをすることによるジャンパー膝や、腰を反ってスパイクをすることによる腰椎分離症になりやすくなります。オーバーユースが原因の症状は、安静にすることが大切です。しかし、患者がナショナルチームのメンバーであればそうはいきません。可能な限り早期復帰ができる処置を考案して提供する必要があります。このように、傷害の現れ方は競技によってさまざま、治療方法も患者の立場や状況によって変化します。一人ひとりの症例と向き合いながらスポーツ傷害の本質を探り、早期復帰や傷害予防の手立てを模索しています。

大学院生の中には、スポーツ医学に初めて触れる社会人経験者も少なくありません。それゆえ、「臨床スポーツ医学特講」の授業では、医学の基礎からいよいよ解説するよう努めています。5000人以上の競技者を治療した経験も活かしながら、早期復帰に貢献する医療や傷害予防の重要性などをお伝えできればと思います。

キーワード

■スポーツ傷害

トップアスリートになるほどオーバーユースが顕著になり、傷害が発生しやすくなる。

■傷害予防

さまざまな治療を通して、人間の運動機能の仕組みを知る。その活動が傷害予防につながる。

■早期復帰

長期間の安静が難しいトップアスリートの世界。適切な治療による早期復帰サポートが求められる。

■バレーボール

チームドクターは整形外科医が多い。国際試合に帯同する場合は、ホテルなどで治療することも。

森北 育宏 教授

略歴

大阪市立大学 医学部大学院。
全日本男女バレーボールチーム チームドクターとして国際試合に帯同。
大阪市障害者福祉・スポーツ協会理事に就任。

研究論文

Ikuhiro Morikita, Shinya Kisii, Yasuhiro Mitani Incidence, Symptoms and Diagnosis of Jumper's Knee and Knee contusions in College Women's Volleyball Players. Journal of Physical Therapy Science 21(2) 121-127 2009
Takenori Awatani, Ikuhiro Morikita Same-session and Between-day Intra-rater Reliability of Hand-held Dynamometer Measurements of Isometric Shoulder Extensor Strength. The Journal of Physical Therapy Science Vol.28(3), pp. 936-9, March 2016